

社会人基礎力でみるインターンシップの効果と課題 —短期大学生の場合—

藤 島 淑 恵¹⁾ 梶 田 鈴 子²⁾

Effects and Challenges of Internship from a Viewpoint of “Fundamental Competencies for Working Persons”: The Case of Junior College Students.

Toshie Fujishima¹⁾ Suzuko Kajita²⁾

(2016年11月25日受理)

1. はじめに

中村学園大学短期大学部キャリア開発学科(以下、「本学科」という)では、平成19年度よりインターンシップを実施している。平成23年度までの5年間は定員制(50名)の選択科目であり、春季のみで実施していた。しかし、学生アンケートや実習後のフィードバック面談で、学生に働くことに対する「気づき」があることや、実習後の勉学や就職活動に対する積極性がさらに向上していることが分かり(資料2)、1年間の試行期間を経て、平成25年度より必修科目としている。

平成25年度の「キャリア意識尺度」(安達, 2004)と「CDDQ-R (Career Decision-Making Difficulty Questionnaire-revised, 進路選択の困難さに関する質問紙)」(若松, 2001)のアンケート調査(手嶋康則他, 2015)では、インターンシップは進路選択の際に感じる困難さを軽減する効果があること、夏季実習生の就職未決定者は進路選択に対して困難さを感じているのに対し、春季実習生の就職未決定者は進路選択に対する困難さを決定者より感じていないにも関わらず受け身の姿勢が最も強いことなどが分かった。インターンシップの効果をさらに検証するため、本稿ではインターンシップの実習前後に行っている学生の社会人基礎力の自己評価をもとに、①夏季実習生と春季実習生の自己評価の差、②早期(9月30日時点)での内定の有無による自己評価の差、③どのような因子が内定状況にかかわっているのかを考察する。また、インターンシップが短期大学生の社会人基礎力育成に果たす効果と課題を明らかにするものである。

2. インターンシップの現状

経済産業省の平成24年度産業経済研究委託事業「産学連携によるインターンシップのあり方に関する調査」によると、我が国では教育効果の高いインターンシップの普及が、量的にも質的にも不十分であることが課題としてあげられている。

量的普及が不十分な要因としては、①大学単位での普及率は約7割と高いが、学生別でみた場合の参加率は低い^[1]、②大企業アンケートでは、人事担当者はキャリアガイダンスとしての教育効果を認識しているが、負担に対するメリットが不明瞭で、積極的に取り組んでいる企業は少ない、③地域の中小企業ではインターンシップ=負担という認識で受け入れを躊躇するケースも少なくない、④インターンシップのポジションの数は限られており、実際にインターンシップを希望しても受け入れてもらえない学生が多く存在する(特にトップ校以外の学生)、⑤今後、普及・推進の取り組みにより参加率が高まってくると、さらにそうした状況が加速すると予想される(英国では就職難とともにトップ学生のインターンシップ参加が増加、競争が激しくなっている。)ことがあげられている。

質的な課題としては、①大学・企業ともにインターンシップとして高い実習効果を得るには1ヶ月以上の期間が必要という認識が多い(図1)が、8割が2週間以内である、②就職活動の一環としての認識が根強く、産学協働教育の有効な一プログラムとしての教育効果(「キャリア教育」「専門教育」「教養教育」)や社会的意義については限定的な認識しかない、③教育効果を目的に実施されているものについても、質の評価の基準やひな型が普

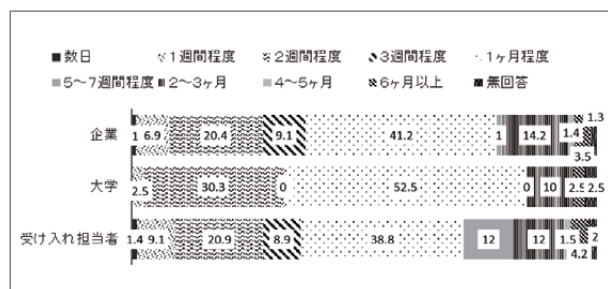
別刷請求先: 藤島淑恵, 中村学園大学短期大学部キャリア開発学科, 〒814-0198, 福岡市城南区別府5-7-1

E-mail: t-fuji@nakamura-u.ac.jp

1) 中村学園大学短期大学部キャリア開発学科講師

2) 中村学園大学短期大学部キャリア開発学科教授

[1] 文部科学省「平成26年度大学等におけるインターンシップ実施状況について」によると、単位認定を行うインターンシップのうち特定の資格取得に関係しないものの実施校は大学学部551校(73.3%), 短期大学136校(39.3%), 参加学生数・参加率は大学学部66,125人(2.6%), 短期大学5,848人(2.6%)である。



データ：厚生労働省 2005 「インターンシップ推進のための調査研究委員会報告書」

図1 学生が高い実習効果を得るために必要な日数

及していないため、プログラムとしての設計が不十分なものが多く、企画・実施を担える専門人材も不足、④受入企業にとってのメリットの設計・実現も不十分で、社会貢献だけでは教育として持続していかない、ということがあげられている。

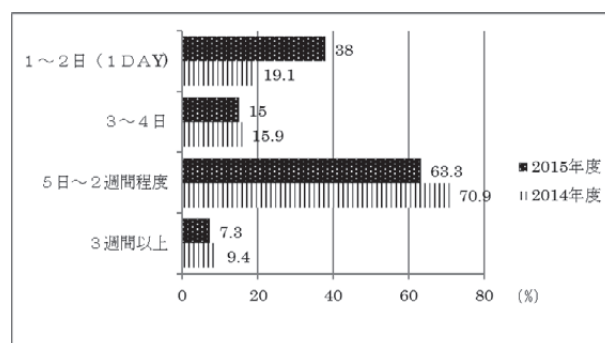
また、経団連加盟企業の採用選考開始時期は2014年度卒までは4月開始であったが、2015年度卒は8月、2016年度卒は6月と2年連続で就職活動スケジュールが変更となった。それに伴い、「1 DAY インターンシップ」など「インターンシップという名の会社説明会」が増加している。株式会社ディスコの調査によると、2015年度のインターンシップ期間は、1～2日間（1 DAY）が38.0%と前年度の19.1%から、倍近くに増えている（図2）。会社説明会を目的とするインターンシップは、当然ながら参加した学生を選考で有利にするというケースもある。

3. 本学科におけるインターンシップ

採用に繋がったケースが全くないわけではないが、本学科ではインターンシップを「仕事理解型」の教育として位置付けている。「仕事理解型」とは、働くこととは何か、自己の適性や志向の理解、業界の理解など基礎的なキャリア教育を目的としたものである（表1）。学生の実習目標も、「仕事内容を知る」や「社会人がどのようなのか知る」、「自分が持っているスキルが社会で通用するか確かめる」、「現在の自分に足りない課題を見つける」といった内容が多い（資料1）。

本学科のインターンシップは夏休み（夏季）あるいは春休み（春季）に実施し、期間は10日間だが、一部14日間の「長期インターンシップ」がある。一般的には、長期インターンシップとは3ヶ月～1年であるが、本学科では単位認定に必要な実習期間は10日間としており、それより長い実習期間については「長期インターンシップ」と呼んでいる。

実習の時期をどちらにするかは、学生が希望をエントリーシートに記載する。どちらを選べばよいのかと質問をする学生が多いが、これまでの学生アンケートや実習後の面談の内容から、それぞれ次のようなメリットがあ



データ：ディスコ 2014「調査データで見る『インターンシップ最新実施状況』」

図2 インターンシップの実施予定期間

表1 教育効果・社会的意義と普及の現状

a 仕事理解型	【キャリアガイダンスとしての教育効果が期待できる】 ○大学早期（1・2年次）に「インターンシップの経験」と「内省」の機会を提供することは、働くとは何か、自己の適性や志向の理解、業界の理解など基礎的なキャリア教育に資する。 ○結果、業種・職種・企業規模等を踏まえた応募先の適切な絞り込みにつながる。就活短期化により、企業の無駄なエネルギーの浪費、学生の無駄な落胆、相互疑心暗鬼も減少。
	【採用活動におけるミスマッチの解消】 【キャリアガイダンスとしての教育効果も期待できる】 ○現状、一部の新興大企業や外資系企業が、リアリティックジョブプレビューによるミスマッチ解消を目的に実施している。内容によっては教育的効果もある。

引用：平成24年度産業経済研究委託事業「産学連携によるインターンシップのあり方に関する調査」

ると考えられる。夏季は、①学生生活の早期に自分の課題に気づく、②学生生活の早期に職業選択の視野を広げることができる、③学生生活の早期に就職活動に向けての心構え、準備ができる。春季は①1年間の学修を通じ成長しているため、自信をもって実習に臨める、②インターンシップ終了後のモチベーションが高い状態で、就職活動を始めることができる。

学生にはそれぞれの時期のメリットを説明し、希望する時期にエントリーシートを提出させる。実習先の企業の数に限りがあるため、夏季に希望する学生が定員に満たない場合は定員を満たすために、夏季を希望しなかった学生の中から抽選、多い場合は先着順およびエントリーシートによる選考を行っている。しかし、期日より遅れて提出するなどの不備がある場合を除き、学生はほぼ希望どおりの時期に履修することができている。

実習先は主に担当教員のコネクションであり、中堅・中小企業が8割程度、業種、職種は様々である。一部金融機関においては研修型の実習であるが、それ以外の実習先においては、可能な限りアルバイトでは経験できない業務に携わらせてもらうよう依頼をしている。学生はエントリーシートで、①事務職、②事務職以外、③どちらでもよいを選択し、さらに業種等の希望がある場合は記載する。本人の希望と適性を考慮し、担当教員が実習先を決定する。学生は、将来就きたい業種・職業を希望することもあれば、あえて異なる業種・職種を希望することもある。

4. インターンシップが社会人基礎力に与える影響の検証

本節では、「社会人基礎力」によるアンケート調査の分析結果を報告する。「社会人基礎力」とは、経済産業省が2006年から「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として提唱しているものであり、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されている（図3）。



引用：経済産業省「社会人基礎力」

図3 「社会人基礎力」3つの能力と12の能力要素

アンケート調査は、事前研修の最後と事後研修の最初の回に実施し、学生に12の要素について自己診断シートにより5段階で自己評価をさせた。このアンケート結果より、自己評価の順位相関係数（4-1）、事前と事後の自己評価に変化はあるか（4-2）、夏季実習生と春季実習生で自己評価に差があるか（4-3）、9月30日時点での内々定（以下、「内定」という）の状況により自己評価に差があるか（4-4）、実習時期と内定の有無による自己評価に差があるか（4-5）、そしてどのような因子が内定状況に関わっているか（4-6）について、分析を試みた。

対象人数：146名（171名中、欠損値がある者を除く）

うち 夏季：74名、春季：72名

うち 9月30日時点での内 定：85名
未内定：61名

実施時期：夏季 実習前：平成26年7月

実習後：平成26年9月

春季 実習前：平成27年1月

実習後：平成27年4月

検定方法：独立したサンプル

Mann-Whitney の U 検定

対応があるサンプル

Wilcoxon の符号付き順位検定

4-1 自己評価の順位相関係数

社会人基礎力の自己評価について、各項目との関係を見るために Spearman の順位相関分析を行った（表2）。その結果、「事前主体性—事前働きかけ力（ $p=.409$ ）」の項目で、中位の正の相関がみられた。また、「事前働きかけ力—事前創造性（ $p=.379$ ）」「事前傾聴力—事前柔軟性（ $p=.379$ ）」「事前傾聴力—事後傾聴力（ $p=.379$ ）」「事前計画力—事前状況把握力（ $p=.371$ ）」「事前柔軟性—事前状況把握力（ $p=.369$ ）」「事前主体性—事前発信力（ $p=.364$ ）」「事前ストレスコントロール—事後ストレスコントロール（ $p=.344$ ）」など58の項目で低い正の相関がみられた。

特に事前の自己評価で「主体性」の点数が高い学生は、事前の「働きかけ力」「実行力」「発信力」「傾聴力」「状況把握力」、実習後の「主体性」「働きかけ力」「実行力」「状況把握力」といった他の項目の点数も高いことが分かった。

4-2 事前と事後の自己評価の差

実習生の自己評価について、事前と事後の自己評価に差があるのかを比較した（表3）。

中島（2015）の大学生を対象とした研究によると、「社会人基礎力」の12能力要素のすべてにおいて、実習後の得点が実習前を0.26点以上上回っており、特に「発信力」「実行力」「課題解決力」で高くなっている。同じく大学生を対象とした真鍋（2010）の研究では、「課題設定型」のほうが優位に伸長していることが判明しているものの、「日常業務型」でも社会人基礎力の伸長がみられる。

しかし、本学科においては事前と事後の自己評価で、いずれの項目においても事後の評価のほうが低い傾向にあり、特に「主体性」（ $p<.01$ ）、「創造力」（ $p<.05$ ）の2項目においては有意差が認められた。

事後に評価が下がるのは、能力が低くなったわけではなく、事前の自己評価が高すぎるため、実習を通じ社会で求められるレベルが分かったのではないかと推測される。

4-3 実習時期の違いによる自己評価の差

実習生の自己評価について、事前と事後において、夏季実習生と春季実習生で差があるのかを比較した。

まず、夏季実習生と春季実習生では、事前アンケートにおいていずれも夏季実習生の平均点が高い傾向にあり、「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「発信力」「柔軟性」「状況把握力」「ストレスコントロール」（以上 $p<.01$ ）と「創造力」「規律性」（以上 $p<.05$ ）の10項目で有意差が認められた。しかし、事後アンケートでは、

表2 Spearman の順位相関係数

		事前アンケート												事後アンケート											
		主体性	働きかけ力	実行力	課題発見力	計画力	創造力	発信力	傾聴力	柔軟性	状況把握力	規律性	ストレスC	主体性	働きかけ力	実行力	課題発見力	計画力	創造力	発信力	傾聴力	柔軟性	状況把握力	規律性	ストレスC
事前 アン ケー ト	主体性	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	働きかけ力	.409**	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	実行力	.303**	.208*	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	課題発見力	.278**	.059	.263**	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	計画力	.225**	.204*	.318**	.240**	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	創造力	.271**	.379**	.290**	.110	.100	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	発信力	.364**	.338**	.232**	.158	.159	.254**	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	傾聴力	.259**	.181*	.229**	.233**	.268**	.177*	.190*	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	柔軟性	.110	.270**	.167*	.128	.205*	.131	.179*	.379**	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	状況把握力	.327**	.298**	.228**	.226**	.371**	.167*	.129	.356**	.369**	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
規律性	.153	.139	.269**	.171*	.147	.087	.099	.172*	.209*	.242**	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ストレスC	.114	.153	.092	.175*	.092	.059	.030	.033	.144	.169*	.059	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
事後 アン ケー ト	主体性	.324**	.252**	.115	.146	.091	.053	.167*	.018	-.050	.032	-.073	.171*	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	働きかけ力	.320**	.328**	.143	.048	.167*	.068	.209*	.196*	.137	.285**	-.032	.185*	.275**	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	実行力	.216**	.201*	.321**	.082	.176*	.187*	.057	.213**	.005	.100	.179*	-.029	.292**	.039	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	課題発見力	.211*	.126	.206*	.276**	.271**	.151	.247**	.181*	.009	.037	.106	.118	.221**	.135	.151	1	—	—	—	—	—	—	—	—
	計画力	.131	.019	.152	.174*	.116	.073	.066	.013	.041	.034	.089	.129	.077	.024	.187*	.357**	1	—	—	—	—	—	—	—
	創造力	.178*	.189*	.011	.127	.111	.333**	.123	.238**	.064	.139	.042	.054	.269**	.122	.198*	.266**	.255**	1	—	—	—	—	—	—
	発信力	.154	.073	.030	.059	.102	-.029	.327**	.072	.079	.126	.026	.051	.218**	.132	.048	.201*	.117	.115	1	—	—	—	—	—
	傾聴力	.023	.123	.184*	.047	.106	-.081	-.008	.379**	.280**	.216**	.037	.128	.138	.259**	.131	-.014	.067	.143	.251**	1	—	—	—	—
	柔軟性	.139	.103	.220**	.203*	.003	-.057	-.006	.340**	.222**	.168*	.106	.149	.152	.080	.110	.198*	.034	.028	.102	.287**	1	—	—	—
	状況把握力	.313**	.182*	.100	.053	.172*	.110	.128	.251**	.207*	.322**	.053	.080	.313**	.293**	.163*	.071	.071	.220**	.197*	.283**	.238**	1	—	—
	規律性	.076	.100	.165*	.118	.229**	-.020	.057	.072	.198*	.163*	.325**	.096	.106	.102	.101	.240**	.180*	.018	.168*	.215**	.199*	.076	1	—
	ストレスC	.048	.094	.004	-.005	.125	.071	-.054	.011	.137	.102	-.019	.344**	.206*	.236**	.069	.129	.135	.152	.040	.131	.084	.134	.159	1

* $p<.05$, ** $p<.01$

表3 平均値と分散

上段：平均値 下段：分散		事前アンケート													事後アンケート												
		主体性	働きかけ力	実行力	課題発見力	計画力	創造力	発信力	傾聴力	柔軟性	状況把握力	規律性	ストレスC	主体性	働きかけ力	実行力	課題発見力	計画力	創造力	発信力	傾聴力	柔軟性	状況把握力	規律性	ストレスC		
全体 (146名)		3.80	3.30	3.68	3.45	3.50	3.16	3.23	4.02	4.00	3.79	4.08	3.13	3.57	3.33	3.56	3.29	3.41	2.95	3.10	3.88	3.97	3.86	4.05	3.05		
		0.47	0.53	0.48	0.64	0.57	0.81	0.80	0.54	0.67	0.62	0.65	0.73	0.48	0.60	0.49	0.67	0.61	0.98	0.85	0.69	0.60	0.56	0.66	0.99		
		事後-事前													-0.23**	0.03	-0.12	-0.16	-0.09	-0.21*	-0.14	-0.14	-0.03	0.06	-0.03	-0.08	
夏季 (74名)		4.08	3.47	3.84	3.69	3.59	3.31	3.51	4.12	4.19	4.01	4.24	3.32	3.58	3.43	3.55	3.39	3.45	2.95	3.08	3.81	3.95	3.86	4.01	3.03		
		0.40	0.55	0.43	0.62	0.48	0.86	0.71	0.54	0.50	0.55	0.45	0.57	0.54	0.57	0.57	0.62	0.57	1.02	0.80	0.78	0.65	0.66	0.63	0.86		
		事後-事前													-0.50**	-0.04	-0.28**	-0.30**	-0.15	-0.36**	-0.43**	-0.31**	-0.24*	-0.15	-0.23*	-0.30**	
春季 (72名)		3.51	3.13	3.53	3.19	3.40	3.01	2.94	3.92	3.81	3.57	3.92	2.93	3.56	3.22	3.57	3.18	3.38	2.96	3.11	3.96	4.00	3.85	4.08	3.07		
		0.39	0.44	0.47	0.55	0.63	0.71	0.72	0.52	0.77	0.58	0.80	0.81	0.41	0.62	0.41	0.70	0.65	0.93	0.90	0.60	0.56	0.46	0.69	1.12		
		事後-事前													0.04	0.10	0.04	-0.01	-0.03	-0.06	0.17	0.04	0.19	0.28*	0.17	0.14	
夏季-春季 (内定 85名)		0.57**	0.35**	0.31**	0.49**	0.19	0.30*	0.57**	0.20	0.38**	0.44**	0.33*	0.39**	0.03	0.21	-0.02	0.21	0.07	-0.01	-0.03	-0.15	-0.05	0.02	-0.07	-0.04		
		3.85	3.35	3.71	3.35	3.58	3.22	3.29	4.06	3.98	3.85	4.12	3.18	3.58	3.41	3.61	3.36	3.45	3.01	3.14	4.00	4.00	3.94	4.15	3.09		
		0.46	0.46	0.49	0.63	0.53	0.86	0.87	0.53	0.63	0.55	0.50	0.66	0.48	0.60	0.43	0.70	0.65	0.98	0.87	0.64	0.59	0.46	0.51	1.00		
未内定 (61名)		3.74	3.23	3.66	3.57	3.39	3.08	3.15	3.97	4.03	3.72	4.03	3.07	3.56	3.21	3.49	3.18	3.36	2.87	3.03	3.72	3.93	3.74	3.90	2.98		
		0.49	0.60	0.46	0.64	0.60	0.73	0.68	0.56	0.72	0.69	0.85	0.82	0.48	0.59	0.58	0.61	0.56	0.97	0.82	0.73	0.62	0.69	0.84	0.97		
		事後-事前													-0.18	-0.02	-0.16	-0.39**	-0.03	-0.21	-0.11	-0.25*	-0.10	0.02	-0.13	-0.08	
内定-未内定 (内定 夏季 38名)		0.11	0.12	0.05	-0.22	0.18	0.14	0.15	0.09	-0.06	0.13	0.08	0.11	0.02	0.20	0.12	0.18	0.09	0.14	0.11	0.28*	0.07	0.20	0.25	0.11		
		4.18	3.61	3.84	3.63	3.76	3.42	3.79	4.32	4.18	4.13	4.16	3.47	3.63	3.66	3.66	3.53	3.47	3.00	3.11	3.95	3.95	4.05	4.05	3.16		
		0.36	0.40	0.40	0.60	0.44	0.93	0.69	0.37	0.47	0.54	0.45	0.46	0.50	0.44	0.44	0.62	0.51	1.21	0.94	0.73	0.68	0.42	0.52	0.87		
内定 (47名)		3.57	3.15	3.60	3.13	3.43	3.06	2.89	3.85	3.81	3.62	4.09	2.94	3.53	3.21	3.57	3.23	3.43	3.02	3.17	4.04	4.04	3.85	4.23	3.04		
		0.37	0.42	0.54	0.54	0.54	0.74	0.65	0.55	0.71	0.45	0.55	0.70	0.46	0.64	0.41	0.73	0.76	0.79	0.82	0.55	0.51	0.47	0.48	1.10		
		事後-事前													-0.04	0.06	-0.02	0.11	0.00	-0.04	0.28	0.19	0.23	0.23	0.15	0.11	
夏季-春季 (夏季 36名)		0.61**	0.46**	0.25	0.50**	0.34	0.36	0.90**	0.46**	0.38*	0.51**	0.07	0.54**	0.10	0.45**	0.08	0.29	0.05	-0.02	-0.06	-0.10	-0.10	0.20	-0.18	0.12		
		3.97	3.33	3.83	3.75	3.42	3.19	3.22	3.92	4.19	3.89	4.33	3.17	3.53	3.19	3.44	3.25	3.42	2.89	3.06	3.67	3.94	3.67	3.97	2.89		
		0.42	0.67	0.47	0.63	0.47	0.77	0.56	0.63	0.55	0.54	0.44	0.64	0.58	0.60	0.69	0.58	0.63	0.82	0.66	0.78	0.61	0.83	0.75	0.82		
未内定 (25名)		3.40	3.08	3.40	3.32	3.36	2.92	3.04	4.04	3.80	3.48	3.60	2.92	3.60	3.24	3.56	3.08	3.28	2.84	3.00	3.80	3.92	3.84	3.80	3.12		
		0.40	0.47	0.32	0.54	0.79	0.63	0.84	0.44	0.88	0.81	1.12	1.03	0.32	0.58	0.41	0.63	0.44	1.17	1.04	0.64	0.63	0.45	0.96	1.15		
		事後-事前													-0.44**	-0.14	-0.39*	-0.50**	0.00	-0.31	-0.17	-0.25	-0.25	-0.22	-0.36*	-0.28	
夏季-春季 (内定 38名)		0.57**	0.25	0.43*	0.43	0.06	0.27	0.18	-0.12	0.39	0.41	0.73**	0.25	-0.07	-0.05	-0.12	0.17	0.14	0.05	0.06	-0.13	0.02	-0.17	0.17	-0.23		
		4.18	3.61	3.84	3.63	3.76	3.42	3.79	4.32	4.18	4.13	4.16	3.47	3.63	3.66	3.66	3.53	3.47	3.00	3.11	3.95	3.95	4.05	4.05	3.16		
		0.36	0.40	0.40	0.60	0.44	0.93	0.69	0.37	0.47	0.54	0.45	0.46	0.50	0.44	0.44	0.62	0.51	1.21	0.94	0.73	0.68	0.42	0.52	0.87		
内定 (36名)		3.97	3.33	3.83	3.75	3.42	3.19	3.22	3.92	4.19	3.89	4.33	3.17	3.53	3.19	3.44	3.25	3.42	2.89	3.06	3.67	3.94	3.67	3.97	2.89		
		0.42	0.67	0.47	0.63	0.47	0.77	0.56	0.63	0.55	0.54	0.44	0.64	0.58	0.60	0.69	0.58	0.63	0.82	0.66	0.78	0.61	0.83	0.75	0.82		
		事後-事前													-0.44**	-0.14	-0.39*	-0.50**	0.00	-0.31	-0.17	-0.25	-0.25	-0.22	-0.36*	-0.28	
内定-未内定 (内定 47名)		0.21	0.27	0.01	-0.12	0.35*	0.23	0.57**	0.40*	-0.01	0.24	-0.18	0.31	0.10	0.46**	0.21	0.28	0.06	0.11	0.05	0.28	0.00	0.39*	0.08	0.27		
		3.57	3.15	3.60	3.13	3.43	3.06	2.89	3.85	3.81	3.62	4.09	2.94	3.53	3.21	3.57	3.23	3.43	3.02	3.17	4.04	4.04	3.85	4.23	3.04		
		0.37	0.42	0.54	0.54	0.54	0.74	0.65	0.55	0.71	0.45	0.55	0.70	0.46	0.64	0.41	0.73	0.76	0.79	0.82	0.55	0.51	0.47	0.48	1.10		
未内定 (25名)		3.40	3.08	3.40	3.32	3.36	2.92	3.04	4.04	3.80	3.48	3.60	2.92	3.60	3.24	3.56	3.08	3.28	2.84	3.00	3.80	3.92	3.84	3.80	3.12		
		0.40	0.47	0.32	0.54	0.79	0.63	0.84	0.44	0.88	0.81	1.12	1.03	0.32	0.58	0.41	0.63	0.44	1.17	1.04	0.64	0.63	0.45	0.96	1.15		
		事後-事前													0.20	0.16	-0.24	-0.08	-0.08	-0.04	-0.24	0.12	0.36	0.20	0.20		
内定-未内定		0.17	0.07	0.20	-0.19	0.07	0.14	-0.15	-0.19	0.01	0.14	0.49	0.02	-0.07	-0.03	0.01	0.15	0.15	0.18	0.17	0.24	0.12	0.01	0.43	-0.08		

どの項目においても平均点に有意差は認められなかった。

次に、夏季実習生は事前と事後の自己評価では、事後にいずれも自己評価が低くなる傾向にあり、「主体性」「実行力」「創造力」「発信力」「傾聴力」(以上 $p < .01$) と「課題発見力」「柔軟性」「規律性」「ストレスコントロール」(以上 $p < .05$) の9項目において有意差が認められた。

夏季実習生の事後の自己評価が低くなることの要因として、①入学してわずか半年であり、自分ができていると思っていたことが実習ではできなかった、②積極的な学生が多く、実習先で社会人をしっかり観察したことで、社会で求められる社会人基礎力との差を実感した、③真面目な学生が多く自分に厳しい評価をつけた、ということが考えられる。

一方、春季実習生の事前と事後では、有意差が認められた項目は「状況把握力」($p < .05$)のみであり、事後の評価が高くなっていた。短期大学での1年間の学修やアルバイトを通じ、夏季実習生より成長していると考えられるが、春季実習生は夏季実習生に比べ、事前の自己評価が低く、その理由としては、①アルバイト等を通じて社会を知っている、②春季実習生は積極的でない学生が多いため、インターンシップへの取り組みが夏季実習生より積極的でなく変化がみられない、③自分に自信がなく、事前の自己評価が低い学生が多い、ということが考えられる。

4-4 9月末日までの内定者と未内定者の差

経団連のルールでは内定通知は10月1日からとなっているが、9月30日時点で内定を獲得している学生と、未内定の学生で差があるのかを比較した。

9月末時点で内定を獲得していた学生は85名(全体の58.2%)いた。そのうち夏季実習生38名(夏季実習生の51.3%)、春季実習生47名(春季実習生の65.2%)であり、春季実習生のほうが、内定率が高かった。

内定者と未内定者を比較すると、内定者のほうが未内定者より自己評価が高い傾向にあり、未内定者のほうが高かったのは事前の「課題発見力」と「柔軟性」だけである。また、事前はいずれの項目でも有意差は認められなかったが、事後の「傾聴力」($p < .05$)で内定者の自己評価が高く有意差が認められた。

内定者と未内定者のそれぞれの事前と事後を比較すると、内定者で有意差が認められたのは「主体性」($p < .01$)のみで、事前の評価が高かった。一方、未内定者では、「課題発見力」($p < .01$)と「傾聴力」($p < .05$)において、事後の評価が低く有意差が認められた。

4-5 夏季実習生と春季実習生の内定の有無による自己評価の差

内定を獲得している夏季実習生の、事前と事後の自己評価では、事後に評価が低くなる傾向にあり、「主体性」「発信力」(以上 $p < .01$)と「計画力」「創造性」「傾聴力」(以上 $p < .05$)の5つの項目で有意差が認められた。内定を獲得している春季実習生においては、事前と事後で有意差は認められなかった。

未内定の夏季実習生では、「主体性」「課題発見力」(以上 $p < .01$)と「実行力」「規律性」(以上 $p < .05$)の4項目で事後評価が低く有意差が認められた。未内定者においては、春季実習生の事前と事後で有意差は認められなかった。

内定者のうち夏季実習生と春季実習生を比較すると、事前の自己評価においていずれも夏季実習生の自己評価が高い傾向にあり、「主体性」「働きかけ」「課題発見力」「発信力」「傾聴力」「状況把握力」「ストレスコントロール」(以上 $p < .01$)と「柔軟性」($p < .05$)の8項目で有意差が認められた。ところが、事後の自己評価で有意差が認められたのは「働きかけ力」($p < .01$)のみで、夏季実習生のほうが高かった。

未内定者を夏季実習生と春季実習生でみると、事前の自己評価において夏季実習生の自己評価のほうが高い傾向にあり、「主体性」「規律性」(以上 $p < .01$)と「実行力」($p < .05$)の3項目で有意差が認められた。事後の自己評価ではいずれの項目でも有意差は認められなかった。

最後に夏季実習生と春季実習生を内定の有無で比較したところ、夏季実習生の内定者は事後に自己評価が低くなる傾向にあり、「主体性」「発信力」(以上 $p < .01$)と「計画力」「創造性」「傾聴力」(以上 $p < .05$)の5項目で有意差が見られた。また、夏季実習生の未内定者も事後に自己評価が低くなる傾向にあり、「主体性」「課題発見力」(以上 $p < .01$)と「実行力」「規律性」(以上 $p < .05$)の4項目で有意差が認められた。一方、春季実習生は内定者、未内定者ともに事前と事後で有意差が認められなかった。

4-6 因子分析

事前および事後のアンケート結果に基づき、どのような因子が内定状況に関わっているかをみるため、因子分析(最尤法、プロマックス回転)を行った。固有値1以上の因子が8つあったが、減衰状況から4因子を採用することにし、因子負荷量が0.35に満たない項目を削除し、再び最尤法・プロマックス回転を繰り返した。最終的には、8つの項目を削除した。因子分析結果を表4に示す。なお、適合度検定の有意確率は0.196であった。

表4 因子分析結果

	I	II	III	IV
事前柔軟性	0.676	0.058	-0.049	-0.105
事前状況把握力	0.618	0.214	0.012	-0.095
事前傾聴力	0.537	0.000	0.112	0.049
事前計画力	0.388	0.139	-0.046	0.236
事前規律性	0.384	0.115	-0.308	0.206
事前主体性	0.059	0.555	0.233	0.021
事前働きかけ力	0.152	0.549	0.186	-0.103
事前創造力	0.076	0.507	-0.081	-0.041
事前発信力	0.021	0.452	0.080	0.093
事後主体性	-0.286	0.173	0.616	0.120
事後状況把握力	0.130	0.082	0.504	-0.030
事後傾聴力	0.384	-0.392	0.485	0.046
事後働きかけ力	0.051	0.206	0.464	-0.040
事後課題発見力	-0.089	0.106	0.036	0.693
事後計画力	-0.043	-0.066	0.026	0.539
事後規律性	0.230	-0.118	0.027	0.401
因子間相関 I		0.223	0.374	0.212
II			0.259	0.313
III				0.194

第1因子は、事前アンケートの項目で占められていることから、まず、実習前の状態を表す因子である。「計画力」も含まれるものの「柔軟性」「状況把握力」などといったチームで働く力に関連した項目が高い因子負荷を示していることから「実習前の周囲と協調する力」と命名した。

第2因子も、事前アンケートの項目で占められていることから、まず、実習前の状態を表す因子である。「主体性」「働きかけ力」「創造力」「発信力」が高い因子負荷を示していることから「実習前の周囲と積極的に関わる力」と命名した。

第3因子は、事後アンケートの項目で占められていることから、まず、実習後の状態を表す因子である。「主体性」「状況把握力」「傾聴力」「働きかけ力」が高い因子負荷を示していることから「実習後の周囲の状況を見て動く力」と命名した。

最後の第4因子も、事後アンケートの項目で占められていることから、まず、実習後の状態を表す因子である。「課題発見力」「計画力」「規律性」が高い因子負荷を示していることから「実習後の課題解決に取り組む力」と命名した。

以上のような因子分析結果を踏まえ、下位尺度を構成した。それぞれの項目を、最も高い負荷量を示す因子を構成するものとみなすと、「実習前の周囲と協調する力」の下位尺度は5項目、「実習前の周囲と積極的に関わる力」の下位尺度は4項目、「実習後の周囲の状況を見て動く力」の下位尺度は4項目、「実習後の課題解決に取り組む力」は3項目で構成される。次に α 係数を用いて下位

尺度の内部一貫性を検討したところ、「実習前の周囲と協調する力」は0.670、「実習前の周囲と積極的に関わる力」は0.658、「実習後の周囲の状況を見て動く力」は0.600、「実習後の課題解決に取り組む力」は0.536であった。若干低い値ではあるが、3～5項目で構成されていること、項目間に相関があることを踏まえ、利用できる内部一貫性を有していると考えた。そこで、下位尺度ごとにすべての項目を用い、その合計を下位尺度得点とした。各下位尺度の平均値および標準偏差を表5に示す。表5には、内定・未内定別に、4つの因子ごとに内定・未内定で下位尺度得点が異なるか否かについて、t検定による検討を行った結果もあわせて記載した。

表5にみられるように、すべての項目で有意差はみられなかったが、「実習後の周囲の状況を見て動く力」「実習後の課題解決に取り組む力」については、内定者のほうが未内定者より平均値が高く有意差傾向があることが分かった。

表5 下位尺度得点の内定・未内定による比較

		全体		内定		未内定		t 値
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
実習前	周囲と協調する力	19.40	2.560	19.58	2.259	19.15	2.949	0.953
	周囲と積極的に関わる力	13.50	2.267	13.72	2.389	13.20	2.088	1.369
実習後	周囲の状況を見て動く力	14.64	2.060	14.93	1.765	14.23	2.383	1.943 [†]
	課題解決に取り組む力	10.75	1.739	10.96	1.776	10.44	1.669	1.796 [†]

[†] $p < .10$

5. まとめ

夏季実習生は事後に社会人基礎力の自己評価が低くなり、春季実習生は変化がないことが分かった。また内定者と未内定者では変化がみられないものの、夏季実習生と春季実習生に分けてみると、同じく夏季実習生は自己評価が事後に低くなっており、春季実習生は変化がないことが分かった。その要因として夏季実習生は、アルバイト経験が全くない学生もいる早期の段階での事前アンケートであり、自己評価が高い可能性がある。実習を通じ社会で求められる社会人基礎力のレベルに気づくことができるのも、インターンシップの成果の一つであるといえよう。

次に、夏季実習生は春季実習生より「主体性」をはじめとする10項目で自己評価が高く、積極的な学生が多いといえる。本学科のインターンシップは必修科目のため、インターンシップに対し春季実習生にはモチベーションが高くない学生がいることが影響していると考えられる。春季実習生は夏季実習生より半年間長く学修をしており、ほとんどの学生がアルバイトの経験をしているということもあるが、夏季実習生に比べ、実習に対する取り組みが消極的であり、実習前後に差がないということが考えられる。

しかし、春季実習生のほうが早期内定率は高かった。これはインターンシップ終了後の高いモチベーションで、就職活動を始めることができたことが影響しているのであろう。いうまでもなく就職活動は主体的に行動することが重要となるが、インターンシップを通じ自ら行動しなくてはいけないことを学び、行動に繋がったと考えられる。

また、実習後の調査においては、夏季と春季の自己評価に差はなくなるため、インターンシップを通じ、社会人基礎力のレベルがほぼ同じようなレベルになったともいえる。

インターンシップが社会人基礎力に与える影響を考えると、短期大学生においては入学後間もない夏季にインターンシップを行うことで、より高い効果が期待できる。ただし、その効果が「社会で求められる社会人基礎力のレベルに気づく」というだけでは、もったいない。今回は社会人基礎力についてのアンケート調査の結果であり、インターンシップは社会人基礎力以外に、職業選択にも大きく影響していることが考えられる。だが、社会人基礎力の育成という観点でいえば、実習前に正しい評価をすることができれば、インターンシップを通じ、社会人基礎力を向上させることが期待できる。

今後、①事前研修等で社会に求められる社会人基礎力を理解させたくてアンケートを実施する、②インターンシップは学生自身の取り組みによって効果が大きく変わることをこれまで以上に教育し、特に春季実習生への実習に対する心構え等の教育を強化する、③目標設定についての指導を強化することで、実習の効果をさらに上げることが課題である。

また、早期内定者は「実習後の周囲の状況を見て動く力」「実習後の課題解決に取り組む力」で有意差傾向が見られた。これらの因子である事後「主体性」「状況把握力」「傾聴力」「働きかけ力」「課題発見力」「計画力」「事後規律性」の力を伸ばすことができるようインターンシップに臨ませることも課題である。

引用・参考文献

- 安達智子 2004「大学生のキャリア選択―その心理的背景と支援」『日本労働研究雑誌』46巻12号 27-37
- 厚生労働省 2005「インターンシップ推進のための調査研究委員会報告書」
- 手嶋康則、藤島淑恵、梶田鈴子 2014「インターンシップ必修化の取組みについて ―中村学園大学短期大学部キャリア開発学科の事例―」『中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要』第47号 117-125
- 特定非営利活動法人エティック 2014「平成24年度産業経済研究委託事業 産学連携によるインターンシップのあり方に関する調査報告書」

- 中島美佐穂 2015「インターンシップ参加による社会人基礎力の変化について」『大阪経済大学人間科学部人間科学研究』第9号 87-95
- 真鍋和博 2010「インターンシップタイプによる基礎力向上効果と就職活動への影響」『インターンシップ研究年報』第13号 9-17
- 若松養亮 2001「大学生の進路未決定者が抱える困難さについて―教員養成学部の学生を対象に―」『教育心理学研究』49巻2号 209-218
- 経済産業省ホームページ「社会人基礎力」URL: <http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>
- ディスコ 2014「調査データで見る『インターンシップ最新実施状況』」URL: <http://www.disc.co.jp/uploads/2014/08/internship201408.pdf>
- 文部科学省「平成26年度大学等におけるインターンシップ実施状況について」URL: http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2016/03/15/1368428_01.pdf

資料 1 目標 (学生アンケート)

自分ができることを積極的に頑張っていく。分らないことは納得がいまで質問する。
コミュニケーション力を向上させたい。[社会人]を体験して、将来の夢への視野を広げたい。
自分のやるべき仕事以上のことをする。自分に足りないものを見つける。
今まで学んできたビジネスマナーなど多くのことを実践する場でもあると思うので、しっかりと身につけたいと思います。また、将来のこと、仕事について考えることのできる重要な機会なので、多くのことを学び、今後につなげられるようにしたいです。
自分のやるべき仕事以上のことをする。自分に足りないものを見つける。視野を広げる。
事務職の仕事内容を知る。その中で自分に合っているものを探す。
積極性を磨きたい。
ビジネスマナー、コミュニケーション力を身につけたい。仕事がどのようなものか知りた。
インターンシップ後の学生生活の目標を明確にする。
自分からコミュニケーションをはかる。
実際に店頭で今の自分の力を試したい。
不足している能力を補い、十分あると感じている能力をのばしていき、自分が何のために仕事をするか考え直すこと。
社会で通用するコミュニケーション能力をつけ、企業の雰囲気を感じとる。
働くことの大変さ、楽しさを知る。
自分に合った職業を考えることと今の自分に足りないことを探し目標を決めることです。
社会人としてのコミュニケーション力とビジネスマナーを学び、磨く。
学生と社会人との違いを学びたい。
自分に不足している部分を見つけ、成長すること。仕事をするための雰囲気をつかむこと。
仕事をするための厳しさを学ぶ。
自分がしたいことを見つける。自分が何に向いていて、何にやりがいを感じるか等、自分の気持ち、思いを顕著にする。
就活に向けて気持ちを切り替える。
事務職が本当に自分にあっていのかどうかを実践していきたい。
事務職が自分に本当に適しているのかを知りたい。
将来就きたい職場なのでやりがいをもつけること。
これから先、どんな仕事かという不安ばかりで悩んでいて、いろんなことを経験して視野を広げたい。
自分から積極的に職場の先輩方に話し掛け仕事のことだけでなく社会人として大切な事を学ぶ。
仕事をする上で自分にとって何が足りないのかを見つける。コミュニケーション力を伸ばす。
不足している部分の成長。
将来の具体的な夢を決める。
話すときは、ハキハキと話しコミュニケーション力を高めること。
自分にその仕事があることを確かめる。
吸収できるものはすべて吸収し、指示されるまで待つではなく、自分から積極的に動く。
仕事とは何かを学んで就職に活かすこと。
コミュニケーション能力を高め、笑顔を意識する。
仕事内容を実際に体験し、身につけておくべきことや、自分の強み、弱みを理解する。
就活に対する自信をつきたい。
仕事とは何なのかを自分なりに考えることができるようになる。待つのではなく自分から。
社会人として必要とされていることを発見すること。
自らどんどん行動する。
社会人にとって、必要な事を知り、少しでも身につけること。
仕事の雰囲気をつかみ、視野を広げる。
事務の仕事はどんなものかを実際に体験し、将来の夢を明確にさせる。職場の雰囲気を感じ、人間性を磨く。
行く前より行った後のコミュニケーション力の向上や仕事ができるようになる。
コミュニケーション能力を高める。
自分の仕事に対する意識を変えたい。
様々な年齢層の方と関係をよくするための方法。
自分で何をすべきか、どうすれば役に立てるか考え、行動すること。
自分から積極的に行動し、社会人の方と触れあうことのできる時間なので頑張りたい。
働くこととはどういうことが学ぶ。
自分の足りないところ、いいところを社会に出たときどのように反映させるか確認し、成長したい。
コミュニケーション力をつけ自分に足りないことを見つける。
社会人としてのコミュニケーション力とビジネスマナーを学び、磨く。マナーや接遇を学び、社会人としての在り方を見つけていきたいと思っています。
少しでも多くのことを習得したい。また、積極的に取り組みたい。
就活の時の課題を見つける。
自分が社会でどの程度使える人間なのかを知る。
職場とはどのようなところでどのような雰囲気で行っているのかを知ること。
多くの方とコミュニケーションをとり、自分自身を成長させたい。
自分の力を試すこと。
自分は社会に出て何が出来るのかを知り、足りない物を見つけ克服する。
実際に働くとはどんなものなのか、社会人に必要な事は何かを考え学ぶ機会にしたいです。
自分を成長させる。
働くことの意義を見つけ、就職活動の意識を高めたい、自分のやりがいことを見つける。
コミュニケーション力を向上させ、企業の方との接し方を大切にす。
就職でアパレルを考えているので、今回のインターンシップで不足している部分を見つめ早めに改善したい。
コミュニケーション能力を高め、今後の課題を見つける。
仕事とは何かを経験を通して学ぶ。
働くとはどういうものかを知ること。
失敗を恐れず、積極的にする。
コミュニケーション力と主体性を身につけること。
自分から積極的に行動し、何事も恐れず精一杯チャレンジすることです。
企業の方と多くのお話をし、楽しくお仕事をしたい。
仕事に従事するという具体的なビジョンを得るため。
自分が得意なこと、苦手なことを理解し、今後どのような努力が必要であるのかを知る。
挨拶から元気を出し、コミュニケーションをとるようになる。
一つでも企業の役に立てよう全力で頑張りたいです。
自分に合った職種をみつけること。仕事をするということは、どういうことなのかについて知る。
自分に向いている職は何なのか。
コミュニケーション能力を上げる。
明るく元気で働き、コミュニケーションをとる。
自ら行動すること。

具体的な仕事内容を知ること、自分の将来を再確認する。コミュニケーション力を高める。
企業が必要と思ってくれるくらい一生懸命頑張る。
実際に仕事を体験し、企業の具体的な仕事内容を知る。その中でも自分はどういう仕事に向いているのか、向いていないのか自己の適性を見極める。
実際に働いている人を見て、自分に必要なスキルなどを発見し、吸収する。
仕事に積極的に取り組み、コミュニケーション力を高めたい。
取材を通して、不足しているコミュニケーション能力を伸ばしたいです。
仕事をするのがどんなに責任のあるものかを知り、コミュニケーションの力も高めたい。
自ら進んで動き、いろいろな仕事を体験してみたい仕事があるのを知りたい。
どのような仕事をしているのかを知る。社会人の方たちに、社会に出てからのことなどを聞いたりしたい。
今の自分の適性を知りたい。
自分の将来、どのような職種に向いているかを確認したい。
インターンシップを通じて真剣に考える。
希望の職種、職業が本当に向いているのかを考え、就職活動に生かせる充実した10日間にする事です。
将来働きたいと思う会社、企業を明確化する。
インターンシップにおいて、働くことの意味や大切さを学びたい。また精一杯会社の役に立てるようにしたい。自分の将来、どのような職種に向いているかを確認したい。
インターンシップを通じて真剣に考える。
自ら積極的に行動する。
事務の仕事内容を知ること、働くことはどのようなものかを知る。
想像と現実のイメージ修正、ビジネスマナーがどれだけ身についているか知る。
会社の方やお客様とのコミュニケーションを大切に。ホウ、レン、ソウをしっかりとしていきたいと思う。
社会とは何かを自分の目で見、体験して今後の道路に役立てたい。
自分には何が足りないのかを明確にする。今の自分の知識だけで社会に通用するのかが不安です。
言われたことだけをするのではなく、自分から出来ることを探す。聞く。働くことの意味、仕事のやりがい理解する。コミュニケーション力の向上。
自分にはどのような仕事に向いているのかを知り、就職活動に生かしたい。会社の社員の方とコミュニケーションをたくさんとり話を聞きたい。
実際に仕事を体験して、事務職とはどんなことをするのか身をもって感じたい。また、今まで学んできた能力、スキルがどのくらい実践で活かせるのか、身につけるべきスキルを明確にする。
顧客としては見ることができない裏面を学ぶ。
誰よりも仕事を早く覚えて、会社の役に立つこと。ホテルでのサービスをしっかりと身につけること。
コミュニケーション能力の向上と社会人になる、働くということへの意識を高めること。
言われたことだけでなく、他にすることは自ら探して、質問し積極的に行動する。笑顔とホウレンソウを徹底する。
企業の雰囲気を知り、自分の力を発揮すること。
自己成長。
自分に向いている職業はどのようなものか理解し、志望する職種、業種を決定する。
たくさん失敗し、その失敗から得たものを全て吸収すること。
コミュニケーション能力を向上させる。
今の自分に出ていないものを見つけること。
自分が働いているイメージを確立したい。
販売職について詳しく知る。
事務の仕事は自分にあっていのかを知ること。
何事にもチャレンジして、一つでも多くのことを吸収して身につける。
自分が就職した時のことを視野に入れながら、何の力が足りないのかを知ること。
現在想像している会社で働くことや、事務職へのイメージと実際の現場で行われている仕事のギャップをなくし、社会の大人の方もしっかり会話ができるコミュニケーション力も高めることを目標としています。
一つの考え方に縛られないこと。視野を広げて行動に移すこと。
ホテル業に興味があるため、ホテル業の大変さ、やりがいを知りたいです。また、積極性を持って自分から行動し、たくさんの人と交流を深めていきたいです。
実際に社会に出て働いている人を見て、一緒に仕事をさせてもらうことで、仕事に対する意識や理解を深め、就活に活かせることができる経験にしたいと考えています。
社会人となることの意味を理解し、自分ができないところを見つかる機会にする。
コミュニケーション力を高めたい。自分の欠けているところを自覚し、これからの学校生活の課題にしたい。
自分自身の適性を知り、社会人になるまでにやるべきことを見つける。会社の雰囲気を味わう。迅速かつ正確に業務を行う。
自分に今、何が足りないのかを知り、今後に活かせるようなインターンシップにする。
今の自分に不足している力を見つける。
事務職の業務内容を知り、自分の道路を固める。たくさんの人と話をし、視野を広げる。
仕事の大変さを学び、充実した10日間を過ごす。
働くことがどのようなものかを知りたい。
名刺を15人以上に渡すこと。各部署の方の話を聞くこと。
働くことの意味や働くためにはどのような力が必要か、自分には何が向いているのかを見つめたい。
自分に必要な力を身につけるとともに、将来の自分像を明確にするためのものを学んでくる。
明るく元気な笑顔だけは絶やさず、多くのことを学びたい。
与えられた仕事で自分の持っている力を最大限に発揮することです。
ホテルの仕事内容を把握する。働いている人の姿を見てこれからの課題を見つける。
正社員とパートの違いについてや、仕事をスムーズにするために気をつけることなどを働いている人に聞き、教えていただいたことを残りの学生生活で身につけていきたいです。
目配り、気配り、心配りをする。コミュニケーション能力を身につける。
自分にあった仕事のヒントをつかむこと。
コミュニケーション能力、パソコン技術をつける。
銀行の仕事について知る。
事務の仕事内容を学び、コミュニケーション力を向上させたい。
社会人になって必要な力を知ること。
積極的に行動し、今自分が持っている力よりスキルアップする。
社会人としてのマナーを身につける。ホウレンソウを心がける。
知らないことばかりだと思うので、たくさんの方を学びたい。また、声がいづつもがさいのでいつもより大きめに話そうと思います。
仕事の内容を知ること。
常に自分で考えながら一つ一つの作業を効率よく進めていきたいです。
本気で就職する気持ちで10日間やりきます。
普段経験できない体験を通して、今後の就職活動に向けて足りない部分を探す。
社会人としての常識を学びたい。
コミュニケーション能力の向上、名前を覚える。教わったことなどは、すぐにメモをとる。
主体性を持って行動すること。コミュニケーション能力を向上させること。
目上の方と主体性をもってコミュニケーションをはかる。お客様や先輩方に対して、挨拶を最低でも10回返す。
職場の雰囲気をしっかりと知って、自分から取りかかれることを探して行動できるようにする。
成長したいです。

資料2 気づき（学生アンケート）

仕事に対しての嫌な部分は、自分が想像していたよりやりがいが多く、毎日が自分の成長でした。	挨拶をすることによって、顔を覚えてもらうこと。
今までは働くこと→お金を得るためとしか考えていませんでしたが、インターンシップ後は働くこと→やりがい→お金を得るという志向に変わりました。夢のなかった自分自身に実習先の方が考え方や、やりがいの意味を実習を通じて教えてくださったおかげで漠然とはあるけれど、自分のしたいことが見えてきたように思います。	電話対応はマニュアル通りにはいかず、難しかった。丁寧に、正確に事務作業をこなすことも大事だが、それは当たり前でスピードがないと、いけないことに気付いた。笑顔があると褒めていただいたので、これから笑顔を忘れずにいようと思う。
インターンシップを通していろいろな方とふれあいコミュニケーション能力がとても大事だと気づいたし、コミュニケーション能力を向上させることができた。	何事も自ら積極的に取り組まなければならないと思った。「質問はありませんか、と聞かれたときに手を挙げることができない場面が多かった。また模擬面接を行ったときに、上手く言葉のキャッチボールが出来ていないということが分かったので、これからの課題である。
事務志望だったが、営業の業務に関わらせてもらって、事務と営業は繋がっているものだと強く感じた。事務でも営業でもコミュニケーション力は必要不可欠であると感じた。自分に必要なのでは、コミュニケーション能力とパソコンスキルであると思った。	私が実習させていただいた会社は職種が事務とコンシェルジュ(接客)でした。仕事には、見えない所でたくさんあるのだと感じました。志望職種が広がりました。
今まで知らなかったさまざまな企業に訪問し、自分の視野を広げることができた。まだできていなかった名刺交換やビジネスマナーができるようになった。新たな課題は、コミュニケーションのとり方を上達させることだと気づくことができた。	大学に入り、この夢しか見ていなかった自分がいました。その夢に対して努力もあまりできてなく、何をしたらよいかわからない状態でしたが、今回インターンシップに行き、視野を広くもつというように気持ち、本当にしたいことが見えてきた気がしました。いろいろなことに挑戦したいと意欲がわきました。
事務職はパソコンのスキルだけでなくコミュニケーション能力が不可欠であると感じた。今後は周りをよく見て、気を配れるようになりたい。	実習先は、会社の雰囲気がとてもよく、毎日楽しく実習をさせていただきました。フロント業務のことだけでなく、社会人として人間としてあるべき姿を教えていただきました。私は人間力を向上させたいと思います。
一つの仕事を最初から最後までするというやりがい。事務の仕事の楽しさが分かった。	企画書や報告書を作ったりする上で、パソコン力は必要だと実感した。仕事はどんな仕事でもパソコンは書けるものだと知った。今まで、パソコンは苦手だからと避けてきたが、苦手だからこ、やらなければならないと再確認できた。また、人間関係は大事なのだと感じた。仕事は人と関わることが必須で遠ざけることはできないから、人間関係が良くないと良い仕事はできないことに気付いた。
職場の中でもいろいろな仕事があることが分かった。自分は事務とサービス業と迷っているところがあるので調べて追及していきたい。	まだまだコミュニケーションが足りていないこと、そして資格取得は大切だと思った。
自分が思っていたよりも社会は決して甘くないということが分かりました。自ら進んで行動することが社会人に求められていました。	やりたい事や表現したい事が自由に表現できるパソコンスキルを身につける。職場の雰囲気などの重要性が分かった。
書ける英語ではなく話せる英語にしたい。	私の希望職種は医療系ですが、接客もするので、語学力が必要だと思った。
どの仕事においてもコミュニケーション力はすごく大切だと分かりました。その人の人柄、言葉のチョイスで相手の態度は変わります。また、以前より格段に"自分自身が何をすべきか"を考え行動する力が身に付きました。	どの仕事でも根気、体力、忍耐力が必要。
営業も事務も両方経験することができ、自分の中で選択肢が広がった。	実際の社会では、資格があればいいって訳ではなく、コミュニケーション能力、やる気、これらが必要だと思いました。いくら頭がよくても、人に対する気配りや対応がきちんとできていないと、社会では上手くやっていけないからです。やる気がないと仕事は続かないものなのだと感じました。
言葉の大切さをとても感じました。初めのうちは企業の方とコミュニケーションを上手くとることができず、質問もつらくなってたじろすることが多々ありました。しかし、後半になるにつれ、少しずつ会話ができるようになり、仕事も楽しく感じることも増えました。そのため人とコミュニケーションを図るということとは人間関係の雰囲気やモチベーションにすごく影響するものだと気づきました。	以前からコミュニケーション能力や、人柄というのは大切だと思っていましたが、インターンでたくさんの人と関わることによって、オープンマインドで接するというのは本当に大切だと思いました。
社長の授業を通じて「理念」。	コミュニケーション能力や主体性が足りないと感じた。笑顔はよくないと褒められたが、お客様との会話が続かないことが多かった。仕事では必ず人と接する機会が出てくるので、日ごろからニュースを見たり、経済についてある程度知って話題をつくるのが大切だと思った。
自分の本当にしたいことが見つかった。就職先をまじめに調べるようになった。	このインターンシップでは、働くということへの考え方が変わりました。そして、今の自分には社会で働くために足りない事がたくさんあると気づきました。今後の学校生活では、気持ちを改めて社会に出ることを意識しながら毎日過ごすと思っています。
自分にとって足りないものが多く発見できた。仕事だけでなく、プライベート、人として大切なものは何かを考えさせられた。	相手の思いやる心の大切さに気付いた。相手の笑顔を見ることの「幸せ」の大きさに気付いた。
仕事は大変なだけでなく、やりがいを感じられ慣れてくると楽しいものになることに気付いた。これからは様々な職種について視野を広げていき、自分に合った職業を見つけたらいいなと思った。	事務職は集中力やコツコツ取り組み姿勢が大事だと分かった。
インターンシップで気づいたことは、どのような職種でも粘り強さは必要だということです。私は10日間の中で最もしたのは資料整理でした。根気がいる作業だったので粘り強さはとても大事だと思いました。また、目標は今以上にコミュニケーション力を上げることです。実際10日間の中で何度もコミュニケーション力が必要だと感じる場面は多々あったので今以上にスキルを身につけたいです。	改めて、仕事は自分に合った仕事をするのが大切だと思った。企業の方は自分の仕事を愛していってほしいので、私も自分にあった仕事を見つけれようと思いました。
ホテルで働くことの意味を見出せました。それまではホテルで働くってどういうことだろうと思っていましたが、仕事をするとあたって従業員としてではなく、お客さまの気持ちが大切であることを学びました。いろんな人たちがいるんだと改めて感じました。どんな人にも壁を作ることなく、接することは大切だと思いました。そして、仕事は楽しくやれることが大事だなと感じました。	アルバイトをしていて接客は好きだと感じていましたが、実際に自分が洋服を売るとなった。思ったように話せなかったり、話しかけることもできなかったりしたので、もっとコミュニケーション能力を向上したいと思いました。そして、いざ敬語を使うとなると思ったように出てこなかったりしたので、普段から正しい敬語を使い身につけたいです。
改めて販売職に就きたいと思いました。そのために言葉遣いに気を付けます。ファッションのことだけでなく姿勢や表情の重要さに気付きました。	実際にお客様と話す時、何を話せばいいんだろうと考えてしまい言葉が出なかったり、特に敬語で話すことが難しかった。笑顔とコミュニケーション能力は本当に必要で、これさえあれば何とかなることがわかった。2日間くらいは声出しをがんばり、慣れていこうに自然とお客さまと話はずみ、何着も洋服を売ることができ、本当に嬉しく、お客さまに慣れることでやりがいを感じました。
仕事に対する達成感ややりがい、楽しさを感じることができた。しかし、敬語などビジネスマナーがまだまだ足りないと感じたので、ビジネスマナーを中心に学習していきたいと思う。	働くというところがやりがいがあるものだと気づけた。
ビジネスマナー、コミュニケーション能力はとても大切だと感じました。ビジネスマナーを知らずに会社に行ってしまうと相手かすると、印象がとても悪かったはず。しかしキャリアサポート講座やオフィスナジメで言葉遣いやビジネスマナーを覚えてもらうことで少しはマナーを身につけてインターンシップに臨めんじやないかと感じました。	改めて働くこと、社会に出るということの厳しさを知る事ができた。そして、やりがいをもって仕事をするの大切さも知る事ができた。将来自分の会社に誇りをもって働く社会人でありたいと思った。
事務系より販売や接客の方がいいのではないかと気づいた。	もっと大切さのコミュニケーション力をあげて、積極的に話しかけたりするべきだった。受け身ではダメなので改めて感じた。
仕事というのは大変だけど、やりがいがあると思った。楽しく実習することができました。	小さいことから日々の積み重ねを大切にすることが大切であり、それが大きくなり、努力が形に表れるのだと気がつきました。当たり前のことが当たり前にできることの素晴らしさ、一日一日を大切に向上心を持ち続けて過ごすこと。
事務職は何をするものなのかを知ることができた。しかし、私は人と接する仕事が好きでした。	自分から色々な仕事に取り組むと思ひもなかったことが起こる事もあるけど、色々な力に身につく。
10日間のインターンシップは本当に有意義なものになりました。最初は緊張もあり、やっていけない不安な点もありましたが、皆さん明るく受け入れてくれて仕事を任せてくれて、やり終えるたびにやりがいを感じました。これからはコミュニケーション力とパソコンの能力を身につけて行きたいと思ひます。	人の名前や顔を覚えることが苦手、すぐに覚えられない、声が小さい。
人とのつながり、出会いの大切さ、社会の楽しさ、仕事の楽しさ。	今後自分自身を見つめ直し、強み、弱みを知り、自分に自信をもてるようになりたいと思う。
自分には積極性やコミュニケーション力が足りないと感じて改めました。これからはすぐに身につくようなものではないので、就職活動までに何とかなるにつけていきたいと思います。そして、今後の学校生活では健康管理に気を付けて、遅刻、欠席がないようにしようと思いました。また、パソコン入力の早さもまだまだだと社員の方を見て思ったので、たくさん練習しなければならぬと思いました。	言葉遣いを正しくすることが大切だと感じた。企業は他の企業と繋がることで成り立っていると感じた。ささいなことも、報告、連絡、相談を忘れてはいけないと思った。正しい言葉遣いで、たくさんの人とコミュニケーションをとれるようになりたいと考えている。常に目標を持って、行動するように心がけるようになった。
インターンシップを通じて一番思ったのは、職場の雰囲気が良いと仕事は続くとということです。企業の方々は常に忙しそうにしていたが、忙しい中でも、他の人とのちょっとした笑い話などとして、それだけで職場が明るくなり、仕事やりやすくなったと思いました。	仕事というのには一人で成り立つものではないと思った。一つの会社を作るのも、大勢の方が関わり助け合うということが今回身にしみ感じた。自分から発表して積極性を身につけていきたいと思いました。
事務職の仕事、机に向かって仕事をするのを体験させてもらいましたが、事務職以外の仕事にも興味でできました。様々なことを調べていきたいと思いました。	大学3年生の方たちと実習を一緒にさせてもらって気づいたのは、積極性が全然違うと感じたのと、表現力の差に驚きました。
就職活動のとき重視するべきことは、自分がやりがいをもって出来る仕事かということと、職場の雰囲気や調べることで、自分が就職活動する時に、幅広い選択肢をもてるように、今のうちに資格への勉強やいろいろな事を学ぶことが大事だと感じました。	自分が普段だけ受け身でいるのか。色々なバイトを経験してみてどのような職業が自分に向いているのかを探す。
実際に事務の仕事を経験してみて、事務の仕事が好きだということに気付きました。また、パソコンのスキルがまだ全然足りないと感じ、これからの学校生活で身につけていこうと思いました。	まだまだビジネスマナーや敬語が身につけていないので、これから勉強して敬語が正しく使えるようになりたいです。
自分は積極性が足りないと思ひました。分かんない所はどんどん質問していきたいと思ひます。キャリアの授業は実習で役に立つことが多かったため、よかったです。	言葉遣いに気を付けていたつもりでしたが、時々話し言葉になってしまうことがあり、そこを直すことができるようにするのが、今後の課題です。バイトと違って難しいことがたくさんあります。働いてからも勉強することはあると気づきました。
人に接する仕事に就きたいと思ひているため、語学力とコミュニケーション能力を向上させて世界の人と一緒に働いたり、信頼関係を築きたい。	事務もチームワークが大切だということに気づきました。
タイピングや敬語など自分はまだできていませんでした。事務といってもパソコンに向かい合うだけでなく、力仕事やその他の雑用もあることが分かりました。状況判断力を身につけ、もっと多くの企業も見みたいと思いました。	福祉と金融二つの体験を通じて全く違う業種だが、報告、連絡、相談の徹底ややりがいを見つけて働くことの大切さや共通することがいくつもあった。
事務だけでなく、お客さん患者さんと触れあう機会を作っていたことにより、視野が広がった。就職の考え方も、就職先の決め方のお客さん、話を聞いたことにより変わりました。	仕事の大変さややりがいを学ぶことができました。企業先の皆さんの雰囲気もとてもよく、実習中にも一生懸命頑張ろうという気持ちも持ちながら働くことができました。将来事務に就きたいなと思いました。
在学中にたくさん資格を取り、どんな仕事についても役に立つようになりたい。	改めて社会人にはコミュニケーション能力が必要であることを実感しました。事務職にはパソコンは必要不可欠なので、もっとパソコンのスキルをあげられるように頑張りたいです。
社会人になるにはまだまだ不足している部分が多いと感じました。改めて何のために今、学校に来て勉強しているのか考えさせられました。後期は単位を取るために受けるのではなく、身につけることを意識しようと思ひます。	働くことへの責任の大きさと、コミュニケーション能力の重要性について気づく。今後の学校生活では、主にコミュニケーション能力の向上とビジネスマナーをしっかりと身につけることに努めていこうと考えています。
コミュニケーションをはかるうえで、仕事ができるできないよりも、どんな時でもどんな人にも元氣な挨拶をすることが人間関係を築くために大切だと気づいた。ただ「おはようございます」というだけでなく、「〇〇さん、おはようございます」名前を呼ぶことが最も大切な事だと思った。目標は大学の先生に	自分で考えて行動するなどといった主体性をもっと付けていきたいと思いました。また、一般常識についても、まだまだ知ったつもりだけで分らなかったことや、知っていたはずなのに実践できなかったことなどあるので、もっと学んで実践できるようにしていかなければならないと思います。
	コミュニケーション能力をより深く、積極的に行動しなければならないことを感じました。以上のことをより伸ばしていくことを目標としています。
	電話対応、名刺交換など、慣れていないせいかスムーズにできなかった。やりがいを感じることや自

資料2 気づき（学生アンケート）

分らしきを活かせる仕事に就くため、就職活動は妥協したくないと思った。
バイトと仕事は全然違うこと、事務職でもコミュニケーションの力が大切なことなどが分かりました。就職活動では視野を広げがばっていきたいと思います。
効率よく仕事をこなしていくことが重要だと気づきました。与えられたことだけをやっているのは学生の内だけだと実感しました。自分で考えて行動することは大切だと感じました。新たにできた目標は、コミュニケーション能力と積極性の向上だと思います。自分から進んで話しかけることをバイトでまずは実践していこうと思います。インターンシップで学んだことをこれからの就職活動に活かしていきたいです。
一番感じたことは、コミュニケーション力の不足です。社会人になると今以上に、人との関わりが増えます。まずは会話、言葉のキャッチボールを上手くできるようにこれから頑張りたいです。
コミュニケーション力を身につけることができました。私たち学生には企業のイメージが少し違うところがあり、具体的に調べるのが大切だと学びました。敬語をしっかり学ぶことが必要だと知りました。もっと多くの職種のことを調べ、自分の人柄を見返しアピールポイントを見つけることが今後の目標です。
就職に対する視野が広がりました。
アルバイトではできない仕事を経験することができ、視野を広げることができました。事務職は自分に向いていないと決めつけていましたが、実際にやってみると事務の仕事の楽しさややりがいを感じることができました。何事にもチャレンジしてみないと分からない、と感じました。これからは先入観を持たず、どのようなことにも興味を持って挑戦していきたいです。
大人の人とたくさん会話をします。
希望の職種以外のものも、視野に入れようと思いました。また、接客においての重要な事を身を持って実感しました。就職活動では、インターンシップで自分に欠けているところは補いつつ、活かせるところは積極的に活かしていきたいです。
常に相手をやって動くことが大切。人と人とのつながりを大切にしていきたい。
事務職について少しではありますが、知ることができた。また、社会人としての知識やマナーが必要だとわかりました。
お客様とのコミュニケーションを大切に不仅能够、職場の仲間とのコミュニケーションを大切にすることで、仕事で悩んだときは助け合い、よりよいものをお客さまに提供することに繋がると気づいた。今のうちから年齢を問わず多くの人と話す。
私は日本から出ることはないで、英語は少し分かればいいと思っていましたが、これからはグローバル化もするし、訪日外国人も増えるので、もっとできるようにならなければならぬと思いました。
語学力、言葉遣いがまだまだ足りないと実感しました。ホテルについて多くの事を学ぶことができ、ホテルで働きたいと強く実感しました。
アパレル業の大変さや接客業の楽しさ、やがてい
今まで事務職しか視野に入れていませんでしたが、インターンシップで患者さんとコミュニケーションをとっていく中で、接客やサービス職にも視野が広がりました。「ありがとう」と言われたり、誰かの役にたつという仕事にやりがいや楽しさを感じました。少しでも間違えと、人の命に関わる仕事なので、失敗は許されないこと、また一つ一つの仕事に責任を持って行うことが大切だと学びました。今後は、もっとコミュニケーション力を向上させることを目標とします。そして、自ら考え、動く力、主体性も身につけたいと思います。
働くと言うことは辛いということだけではなく、それ以上の達成感を得ることができると気づいた。
社会の厳しさ、自分から動くことの大切。甘い考えでは、社会に出た際に痛目に合うと思った。
自分に足りないビジネスマナーを身につけようと思った。
ずっと机に向いて作業するより、人と関わりながら身体を動かすことが向いていると感じました。また、これまでも課題だったのですが、緊張しやすいタイプであがってしまうと声が震え早口になってしまうため、在学中に少しでも改善したいと強く感じました。
コミュニケーション力の大切さ。
目上の人と普段から話す大切さ。急に敬語は上手くならない。
自分からどんどん行動していくこと。声を大きくすること、明るく笑顔でいることがとても大切だと思った。
人間力を磨く！
コミュニケーションを行う上で、まず相手の話を理解し、「聞く」ことが大切だと気づきました。ジョーキューの醤油や調味料を知って、自分で家で料理に挑戦してみたいと思いました。
まだ私には積極性や言葉の応用力が足りないと感じました。また、会社について詳しく把握してなかったのも、お客様の質問にうまく答えることができず焦ってしまいました。しかし、たくさんお客様とお話できたり、企業の方とお話できたりと接客に対して興味を持つことができました。これからの目標として、積極性を持って自分をアピールしていき、また応用力を身につけて何を言われても答えられるようになりたいです。そのために一歩踏み出す勇氣をつけていきます。
仕事をすることは、半端な気持ちでしてしまえば、周りの人が困ってしまい、責任感が絶対に必要なことがわかりました。しかし、やりとげること、とてもやりがいを感じられると思いました。自分ではコミュニケーションはあるほうだと思っていましたが、初めての方の前だと緊張してしまい、うまく会話ができませんでした。また、すぐに疲れてしまったため、体力ももっと必要であると思いました。新たにできた目標としては、周囲の動きに敏感になり、すぐに気づける人間になろうと思いました。
事務職よりも、営業職が苦でないと感じた。
まず人として「当たり前のことを当たり前にする」ということが大切だと学ぶことができたので、今後人格を磨いていきたいと思う。
働くことは自分を高め夢を持ち続けられるものだとなりました。また、仕事で出会う人々は、仕事をしたいと出会えない方で、密に付き合えるので、すごくいい仕事だと思いました。「家をつくる」中でも、「部屋の家具、内装のデザイン」のところが働きたいという具体的な夢を持つことができました。イ

ンテリアコーディネーターの資格を取得したいと思い、はじめたところです。また文書作成を任せていただき、これまでのパソコンスキルを試すよい機会でした。もっと勉強しなければと思いました。夢を叶えられた十日間のような、充実した時間でした。
コミュニケーション能力(話す力、聴く力)の向上！
事務職に就きたいと思った。
旅行業ではなく、他の業界職種に興味を持った。やりたいことがさらに増え、悩むことがあるけど、「お客様に満足を与えられる人材になる」という目標はできたので、これから就活で具体的にしぼり積極的に取り組みたい。
パソコンスキルはわかっていたつもりでも活用できなかったのも、とても悔しく、もっとスキルを向上していけるようになりたいです。目標:積極的行動。
働くことについて深く難しく、マイナスに考えすぎていることに気づきました。また人との関わりから、訪問先や支援して下さる会社を増やしていく、そのためコミュニケーションがすごく重要であると感じました。また、インタビューの仕事をさせていただいた際、自分の立場からではなく、見えない誰かの立場になって聞く、とても難しいことだと実感しました。しかし、自分は人とお話をすることがすごく楽しく感じ、向いているのではないかと気づくことができました。
接客業は積極性、コミュニケーション能力がとても大事であると分かった。ホテルの仕事内容は思っていた以上に多くて、こんなこともするんだと思うことが多くて、驚きました。どんなことでも自分から動けばよかったと思いました。
今後の自分自身の態度や敬語、挨拶などの基本的なマナーを改めて見直すよい機会になりました。
実際に事務の仕事を手伝っていただき、基本的に人と接することが好きな私にとって、人と関わりのない事務職はあまり向いていないかもしれないと思いました。ですが、人との関わりがある仕事もありました。医療事務などは、人と関わることもあると思います。新たにできた目標はコミュニケーション能力を高めることです。日ごろ、目上の方と話すことがあまりなく、今回のインターンシップでは目上の方しかいなくて、言葉遣いなど常に気にかけていました。私にはコミュニケーション能力が足りていないと感じたので高めていきたいと思いました。
今まで目を向けていなかった職種を体験させていただき、「一人で考える力」が本当に必要だと感じました。誰か教えてくれる人は、今回はインターンシップ生としてくださったのでもでしたが、就職した後では違うし、今の自分はまだまだと感じる場面もありました。そして今後、事務職にも視野を向けつつ、自分にあった職場に就けたらと思います。そのためにもっと就職に対しての意識を向上させ、会社の規模ではなく雰囲気も重視していきたいです。このインターンシップでパソコンスキルを発揮する場面があったのですが、足りない部分もありましたが、自分にも少しはパソコンスキルがついている自信もつくれることができたので、今までのことをもっと復習して、得意分野にしていけるように就職までにしていきたいです。
相手の立場に立って行動すること。相手に伝えたいことは、伝えたいところを強調して言う。日ごろから感謝の気持ちを持って行動する。
就職活動の視野が広がりました。業種も絞れたので、それを目指してしなければいけないことを頑張ります。
人と関わる、話すことが好きだと気づく、効率よく、仕事をするのが得意ではないことが分かりました。日ごろから、期限を決めて物事に取り組むということを目指して、ときばきと仕事ができるようになりたいです。自分の考えをうまく伝えることができなかったのも、年上の方やもっとたくさんの人と話していきたいです。
事務職はずっと座ってパソコンばかりを扱う仕事ではなく、お客さまと関わることも多い職種ということが分かり、コミュニケーション力が必要であることを知った。これから就職活動をするうえでビジネスマナーやコミュニケーション能力の向上を目標にしていきたいです。
アパレル事務という知らなかった職種を体験させていただき、こういう職種もあったのかと新たな発見ができて、アパレル事務に憧れを持つようになりました。ご担当の方が「敬語が少しカジュアルだね」と自分では気づいていなかったところを指摘してください。今後は先生や目上の方とお話をする際に敬語を日常から使っていき、就職活動中、就職して世間に出たときに正しい敬語が使えるようになろうと目標を立てました。
自分のコミュニケーションをとる力がないと、改めて痛感しました。挨拶を笑顔ですることが、コミュニケーションの第一歩だと分かりました。新たな目標として、常に笑顔でいるということです。笑顔でいることで周りとのコミュニケーションもより円滑に取れると感じました。また、スピードが必要だと思いました。丁寧なことももちろん必要だが、それよりもテキパキとした行動が求められていると分かりました。
仕事は自分の気持ち次第で、楽しくなったり、苦しくなったりと感じた。前日にその日の目標を立てているかいけないかでも、やる気が変わってくるし、楽しく仕事ができることが分かった。これからは、何事も前向きに、そして積極的に何事にも臨んでいきたいと思いました。
もっと英語を勉強したいと思った。また、興味のある資格を今年勉強して取得するのが目標です。
自分にこれから必要なものに気づくことができた。また「働く」ということを少しでも感じる事ができた。これからの目標は、自分に足りないものを身につけていくこと。
自分のコミュニケーション能力やビジネスマナーでは、まだ社会人として不十分だと感じる時もあったので改善したいです。インターンシップを通して、学んだことや気づいたことを活かして視野を広げて就職活動を進めていきたいです。
職場の方々みんな仲良く働いている企業で仕事をしたいと思いました。インターンシップで行ったところがすごくみなさん仲良く楽しく働いていたので、私もそんな会社に行きたいと思いました。新たに私は、コミュニケーションをもっとみんなとっていいこうと思います。今まで考えずにみんなと会話をしたりしていたけど、話している相手はどんな話が好きなのかや、どんな風に話すと楽しく話せるかなどを一人一人特徴を見て行きたいなと思いました。